

優秀賞

一般建築物の部

建築主：医療法人社団恵心会
設計：株式会社千田建築設計
施工：株式会社末吉林業
所在地：船橋市三山8-1-2

～暮らしに寄り添う地域医療の拠点～

三山の看・学・医 地域ケアコンプレックス



元軍用道路の商店街の一角に「赤ちゃんから看取りまで」包括的に一次医療を届ける地域医療拠点としての診療所の再整備

(撮影:Luuk Kramer fotografie)

この建築は、医療施設でありながら、どこか「暮らしの延長」にあるような安心感をまとっている。その印象は決して雰囲気づくりによるものではない。地域の現実と真正面から向き合いながら積み重ねられた検討が、空間のあり方として自然に結実しているためである。

商店街と住宅地が混ざり合う場所で、長年地域医療を担ってきた診療所が新たな拠点を構えるにあたり、求められたのは単に「診る」場ではなかった。通い、訪ね、支え合い、学び合う医療のかたちを、いかにこの場所に根づかせるかという問いである。本計画は、その複雑で繊細な要求を丁寧にカタチにしている。

敷地内に設けられた路地は、医療動線を担いながら、同時に地域の日常へとひらかれる可能性を内包している。内部空間には木の質感に包まれた、リビングのような落ち着きが広がる。診療所にありがちな緊張感は和らぎ、ここで誰かの話を聞き、誰かを待ち、誰かと相談する時間が自然に想像できる。「医療の場は、安心の場であってほしい」

という思いが、設計の隅々まで行き届いている。三層に重なるプログラムも見事である。外来、訪問診療、訪問看護、そして学びと休息の場は、視線や気配、音によって緩やかにつながり、医療を支える人と人との距離をそっと縮めている。特に3階のカンファレンスルームは印象深く、医師や看護師、ケアに関わる人々が集い、考え、語り合う姿が目に見え、

この建築は単なる施設にとどまらず、地域の未来を支える拠点として静かに佇んでいる。派手さはないが、時間をかけて地域に根を下ろし、人々の記憶に染み込んでいく強さがある。今後どのように育っていくのかを、見届けたい。

(加藤 未佳)



3階：打ち合わせ、休憩所、医療関係者が集まる勉強会など様々に使われる、コンプレックスを支えるコモン

(撮影:Luuk Kramer fotografie)



1階：落ち着きある真壁のインテリアがどこまでも続く、家のように安心感を感じさせる医療空間を目指した

(撮影:千田 友己)